

2. 養豚農場における防護柵設置後のいのしし侵入状況調査と侵入対策指導

豊後大野家畜保健衛生所

○（病鑑）河上友、加藤洋平、丸山信明、（病鑑）長岡健朗

【はじめに】令和2年10月16日までに9県で飼養豚に豚熱発生、18都府県で野生いのししに豚熱陽性事例。海外からアフリカ豚熱ウイルスに汚染された肉製品も持ち込まれており、国内での豚熱・アフリカ豚熱発生が危惧されることから、令和元年度国及び県事業として、県内の養豚農場に防護柵を設置。大分県では「大分県アフリカ豚コレラ侵入防止計画」にプランA（格子金網を基本とし、折返部は細目金網）、B（格子金網を基本とし、下部は細目金網で補強。折返は細目金網、持ち上げ防止パイプ）及びC（金網はすべて細目とし、金網折返と持ち上げ防止パイプ）を提案し、農家毎にプランを選択。今回、養豚農場にて防護柵設置後のいのしし侵入状況調査と対策指導を行ったので、概要を報告。

【農場の概要】農場は従業員3名の繁殖肥育一貫農場で、森林に囲まれ、いのしし、アナグマや鹿等の野生動物が多く生息し、柵設置前はそれらの動物が農場内へ侵入。柵事業の県プランAを選択し、令和2年4月に防護柵と可動柵の設置が完了。

【農場の現状調査】（1）赤外線監視カメラによるいのしし侵入状況調査：令和2年4月27日～6月29日まで農場内に赤外線監視カメラを設置してデータの回収を行ったところ、いのしし、アナグマ、タヌキ、ネズミ、野鳥、イタチの侵入を確認。（2）農場の現地調査：（1）の結果を受け、令和2年7月16日、森との共生推進室及び豊肥振興局の職員の協力により現地調査を実施。以下の場所からの侵入防止対策を行う必要があると判明。①可動柵の下、柵と建物間のわずかな隙間、土が軟らかい・泥状となっている場所。②柵周囲の草や竹が生い茂っている箇所等いのししが身を隠せる場所。また、③わなの設置によりいのししに脅威を与える、といった対策も提案。

【対策と結果】現状調査を受け、下記の点につき対策指導を実施。①柵の補強…廃材による柵の補強で、いのししの突き上げによる柵の変形が減少。また、アナグマによる穴の形成も減少。②除草・竹の伐採…除草剤の散布、竹の伐採により、野生動物の隠れ家となる場所が減少。③8月23日より箱わなを柵外に1カ所設置したが、10月16日時点でいのししは未捕獲。7月30日まで農場内へのいのししの侵入が確認されたため、巡回時に柵の点検を農場主と一緒にいき、柵の補強を指導。その後、10月14日まではいのししの侵入は未確認。

【他プラン柵設置農場での状況調査】県プランBと県プランCを選択した農場でも、土の軟らかい場所や折返の無い可動柵の下に小型の穴が掘られており、赤外線監視カメラの設置により、一部の穴でアナグマの出入りを確認。

【まとめと考察】今回、県プランAを選択した養豚農場でのいのしし侵入状況調査を行ったところ、柵設置後のいのししの侵入が判明したため、対策指導を実施。飼養豚の豚熱・アフリカ豚熱感染を防ぐためには、柵設置後も、柵の種類に関わらず、農場の土地条件や周囲に生息する野生動物も考慮した、定期的な柵の点検・補修を行うことが重要。また、猟友会の協力による、農場周囲のいのししの捕獲圧の上昇も重要。